

## PRISM 審査会における各対象施策の評価結果について

令和3年10月12日  
PRISM 審査会 決定

PRISM 審査会において、AI 技術領域及びバイオ技術領域の3施策について、10月6日及び12日に、研究開発の内容、研究成果等を各省 PD より説明を聴取し、審査を行った。なお、5段階（A<sup>+</sup>、A、A<sup>-</sup>、B<sup>+</sup>、C）での総合評価を行った。

PRISM は、民間研究開発投資誘発効果の高い領域又は財政支出の効率化に資する領域への各府省庁施策への誘導を目指すものであり、各評価項目について以下の視点で審査を行った。

## 1. 新規事業の評価について

新規事業については、5つの評価項目のうち、「①PRISM 施策の成果（2020 年度）」を除く、4つの項目について評価を行った。

PRISMの対象とすべきかという観点から、②PRISM制度目的との整合性について、民間研究開発投資誘発効果又は財政支出の効率化が期待できるかどうかという視点から確認を行った。

そのうえで、③研究開発の拡大・加速については、アドオン予算により、実施件数、対象範囲の拡大や加速、計画の前倒し等がなされているかという視点であり、最重視した。④民間からの貢献（マッチングファンド）については、今後、民間研究開発投資誘発効果の呼び水として、事業の進展に伴い、さらに民間投資を引き出すことが必要であり、マッチングファンドの獲得状況を評価するため、③に次いで重視した視点である。⑤政策転換については、PRISMによりイノベーション転換をはじめ、基準策定・制度変更など各府省庁の政策を大きく変換させることができるという視点で評価を行った。

また、この評価基準のほか、国研・大学における寄与度、成果見込み、元施策の予算の状況、執行状況なども聴取を行ったところ。

これら4つの個別評価項目の評価を勘案し、別添のように、各施策を5段階の総合評価とし決定している。

以上

## PRISM 審査会における各対象施策の評価結果

## 《AI 技術領域》

対象施策名	評価結果（総合評価）	
屋内外シームレス三次元地図基盤に基づく自律移動モビリティの移動支援の実証評価	新規	A- <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 移動困難な高齢者が増加する一方、医療・介護分野は人手不足が顕著である現状において、本施策は、自律的なモビリティの移動・配送支援サービスに関わる重要な研究開発である。</li> <li>・ 本施策で、自律移動モビリティによる移動支援サービスに必要なシステムの構築を行うことにより、高齢者等の移動弱者に対する自律移動車椅子を用いた支援サービスの実用化が推進するほか、三次元地図プラットフォームを用いた屋内外の広範囲自律走行の実現に向けた研究開発の拡大・加速が期待できる。</li> </ul>

## 《バイオ技術領域》

対象施策名	評価結果（総合評価）	
地球環境負荷低減のための有用微生物スクリーニングプラットフォームの構築	新規	A- <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 有用遺伝子の探索やゲノム編集に比べ、スクリーニング技術にはイノベーションが起きていない中で、本施策は、スクリーニングの大規模化・高効率化に関わる重要な研究開発である。</li> <li>・ 本施策で構築する大規模スクリーニングプラットフォームにより、病原菌に対して拮抗作用を示す有用微生物のスクリーニング効率が飛躍的に向上し、地球環境への負荷を低減する微生物農薬の開発が推進するほか、国内外で技術移転することにより、有用微生物の産業利用に関する研究開発の拡大・加速が期待できる。</li> </ul>
家畜病理診断の遠隔化・ネットワーク化	新規	A <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 発生した場合に被害が甚大な豚熱や鳥インフルエンザ等の新興・再興感染症が頻発する中で、本施策は家畜疾病の迅速かつ正確な病理鑑定に関わる重要な研究開発である。</li> <li>・ 本施策でデジタルデータを活用した病理診断の遠隔化・ネットワーク化を図ることにより、病理診断のスピードが格段に向上し、家畜疾病による損耗率が低下するほか、診断ノウハウをデジタル情報化・AI機械学習化したAI病理診断システムを開発し、製薬企業等が広く利用できるようにすることにより、動物医薬品等の研究開発の拡大・加速が期待できる。</li> </ul>

(新規事業)

A<sup>+</sup> 研究開発計画が優れており、研究開発の拡大・加速が非常に期待できることから、推進費の配分は要求通り認めるべき。

A 研究開発計画が優れており、研究開発の拡大・加速が期待できることから、原則として拡大・加速が期待され、研究開発計画も優れていることから、原則として要求通りとする。ただし、PRISM 予算総額との関係で調整を行うことがある。

- A<sup>-</sup> 研究開発の拡大・加速が期待できるところ、マッチングファンドの状況も踏まえ、マッチングファンドと同額とする又は研究開発計画の一部に見直すべき点があることから当該部分を除いて実施を認める。ただし、PRISM 予算総額との関係で調整を行うことがある。
- B<sup>+</sup> 研究開発の拡大・加速が一定程度期待できるものの、研究開発計画の見直しが必要であり、まずはFSから始めるべきである。
- C 研究開発の拡大・加速に懸念があり、推進費を配分すべきではない。